Tulips University of Tsukuba Repository

定年退官に際して

著者	古田 博司
雑誌名	国際公共政策論集
巻	41
ページ	43
発行年	2019-03
URL	http://doi.org/10.15068/00155224

定年退官に際して

古田　博司

定年退官に際して何か書けということなので筆をとります。第一に、私にとってこの大学は実に良いところでした。生まれつき、DNAの二次塑性でしょうか、所属意識が全くないので愛校心とか学校ナショナリズムは苦手なのです。母校に12年間もいましたが、それが強い学校で随分苦しめられたものですから、1997年に母校に呼ばれたときも断りました。それほど筑波大学は良い大学です。

それで研究もよくできました。1979年、26歳の時に、ソビエトのレニングラードの裏街で失業者の群れを見てしまいました。さらに1980年から6年間、韓国に滞在し、古代と近代の混じり合った異様な世界を見てしまいました。そんなわけで、私は西洋人の作った理念や理論や一般論をまるで信じなくなりました。ですから研究方法は、すべて帰納法、つまり実証主義で通しました。あと、パースのアブダクション（推論）も少し使ったかな。とにかくとても良い研究生活でした。以上です。ありがとうございました。